

なっきょん

2015 夏
SUMMER



奈良教育大学イメージキャラクター
「なっきょん」

奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S
SEASONAL PUBLICATION

<題字>名誉教授 池田 桂鳳



特集

奈良教育大学における

ICT活用推進のための取り組み

羅針盤

ボランティアは楽しい!?

ラボ・レター

英語科教育
佐藤臨太郎研究室

クローズアップ

古典を読み継ぐ
国語教育講座 有馬義貴准教授

なっきょん's CLUB 企画

実践! アクティブ・ラーニング



CONTENTS

2	特集 奈良教育大学における ICT活用推進のための取り組み
7	羅針盤 ボランティアは楽しい!?
10	クローズアップ 古典を読み継ぐ 国語教育講座 有馬義貴准教授
13	ラボ・レター 英語科教育 佐藤臨太郎研究室
14	ひと・あれ・これ 中学校で教鞭を執る大塚厚さん
15	なつきょん's CLUB企画 実践! アクティブ・ラーニング
17	留学生レポート セントラルミシガン大学 (アメリカ) 古川大和さんとバグルンド コナ マックレーンさん
19	キラリ☆奈教生 附属中学校科学部のロボット世界大会優勝を支えた 山崎隆史さん
20	ブカツ魂! 創作ダンス部
20	活躍する奈教生
21	キャンパスニュース
22	奈良に息づく仲間たち
23	奈教生に聞きました! 4年間でやりたいこと



表紙のはなし

タブレットを使ってクイズに挑戦!

表紙の写真は、小学生の大学訪問・見学をICT活用サポーターの学生が支援している一場面です。ひとり一台のタブレットPCと電子黒板を使用し、見学に訪れた小学生へ、奈良に関するクイズを出題しているところです。参加した小学生は、普段触れることのないタブレットPCでクイズに解答したり、「なつきょん」の絵を描いたりし、それをすぐに電子黒板上で共有して見比べ意見を交換しました。

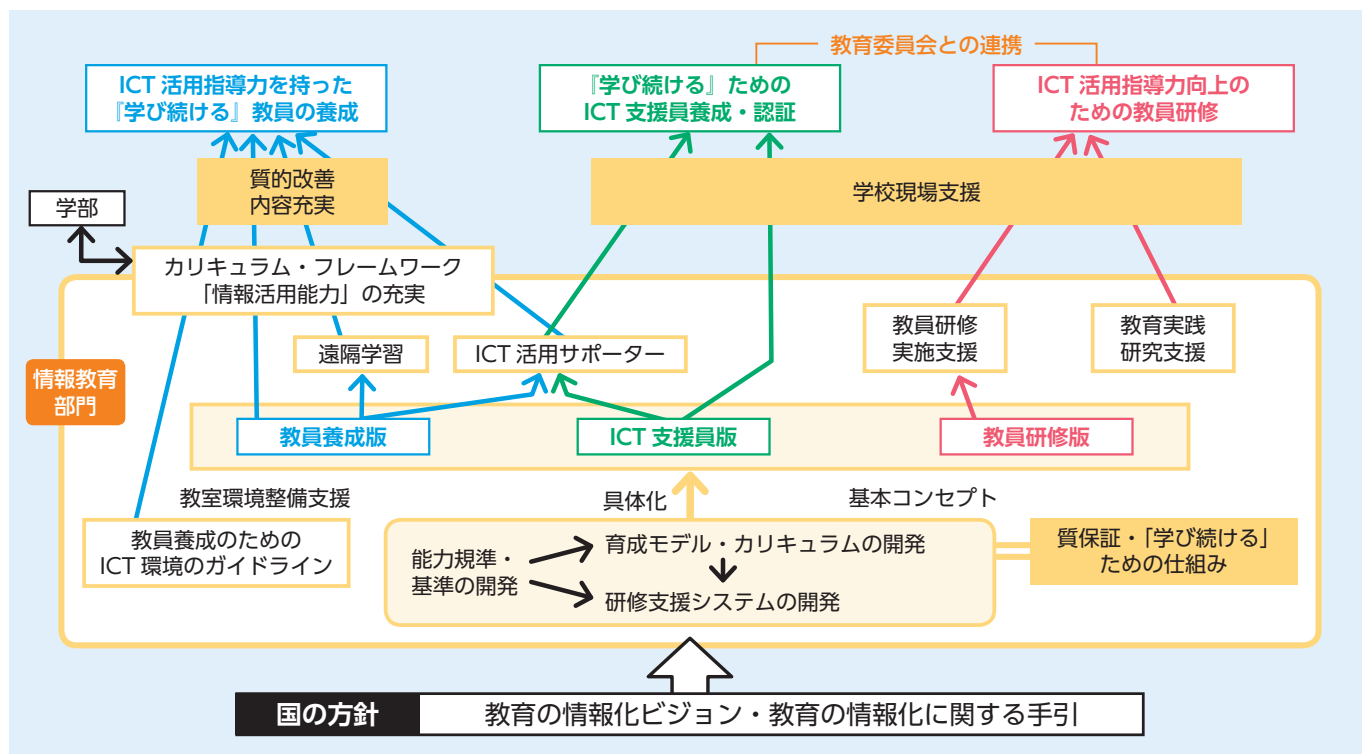


ICT活用推進のための取り組み

この特集では、次世代教員養成センター・情報教育部門における「教員のICT活用指導力向上」のための取り組みを中心に紹介します。

ICTとは、Information and Communication Technologyの頭文字で、情報通信技術と訳されます。ICTという単語には、みなさんが個人で持っているスマートフォンやタブレットからパーソナルコンピュータ、インターネットやクラウドなど様々なものが含まれており、計算機や通信を含んだ技術全般を指します。みなさんのこれまでの学校生活には、どのようなICTが関係していましたか？

ICT活用指導力とは、このようなICTを活用し、より効果的な指導ができる力を指します。文部科学省では、21世紀を生きる子どもたちに求められる力の1つとして、「情報活用能力」(必要な情報を主体的に収集・判断・処理・編集・創造・表現・発信・伝達できる能力等)の育成を挙げており、「教育の情報化」が進められています。ICT活用指導力はこのような「教育の情報化」に対応した教員に求められる能力ともいえます。



次世代教員養成センター・情報教育部門では、教育の情報化に関する国の方針に基づき、ICT活用に関する「教員養成」・「ICT支援員養成」・「教員研修」に貢献することを目的として活動しています。いずれも教員・ICT支援員に求められる能力基準を開発し、それに基づいて育成モデル・カリキュラムおよびその実施を支援するシステムを開発するという形で、教育の質保証および「学び続ける」ための仕組みに基づいて活動を進めています。

ここでは、本学学生がICT活用指導力を身につけることを支援するために、情報教育部門が実践していることの一部を紹介します。

- 情報教育部門の教員が担当している学内授業(一部)
- 京阪奈三教育大学における双方向遠隔授業
- ICT活用サポーター



ICT活用および情報教育に関連する授業の一部

奈良教育大学では、＜新任教員に求められる資質能力目標に基づく教員養成のためのカリキュラム・フレームワーク＞として、7つの目標資質能力基準を作成し、本学の教員養成教育の質の保証とその評価・改善に取り組んでいます。この1つの「情報活用能力」の育成について、情報教育部門の伊藤 剛和教授・古田 壮宏准教授が担当しているものの一部を紹介します。

1年生

授業名：「情報機器の操作」

教育現場で必要となるICT機器操作の基礎的な知識・技能について学ぶ授業です。

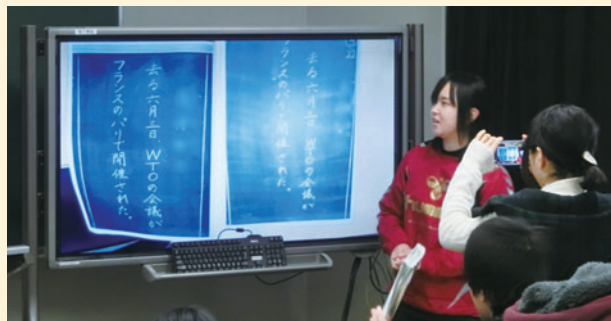


▲パワーポイントでプレゼンテーション資料を作成している様子

2年生

授業名：「板書実践指導」

小・中学校の教育現場において授業中の教員の板書はこどもたちの学習理解度に大きく影響を与えます。単に字を上手に書くことができるようになるのではなく、黒板上の文字の配置やレイアウトが上手くなるように、空間配置能力・板書構成力などの実践的な力を身につけることを目的とした授業です。この授業の一部を伊藤教授、古田准教授が担当し、電子黒板や書画カメラの利用について学びます。



▲書画カメラ・電子黒板を用いて板書のスキルがどのくらい向上したか比較・説明している学生

3年生

授業名：「中等教科教育法(情報)」

高等学校における教科「情報」を教える能力を養うことを目的とした授業です。

情報活用能力を高める授業方法の学びとともに、ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れるように指導できることや、児童生徒の授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できることを目指しています。



▲情報モラルについて話し合い活動をしている様子

4年生

授業名：「教職実践演習」

大学生活のまとめとして、様々な活動や学びをカリキュラム・フレームワークに基づき振り返ります。その過程において足りないところを自覚することで、さらなる向上を目指すための授業です。

この一部として、大学生活で身につけた「情報活用能力」について振り返り、相互に発表、コメントします。



▲教科「情報」の模擬授業を実施している様子
京都教育大学で開講されている「情報」の授業とビデオ会議をつないで、京都教育大学の学生とお互いの模擬授業を受けたり、意見を交換したりしています



京阪奈三教育大学における双方向遠隔授業

奈良教育大学では、京都教育大学・大阪教育大学との京阪奈三教育大学連携推進事業の一環として、双方向遠隔授業を平成24年度後期から実施しています。三教育大学で整備したビデオ会議システムを利用することで、他の2大学の特色ある授業をそれぞれのキャンパスにしながら受講することができるのみでなく、他大学の学生と交流し、様々な意見に触れることができます。

平成27年度前期の開講科目

発信大学	授業科目名	教員名
奈良教育大学	持続可能な開発のための教育と世界遺産	中澤 静男 准教授
	問題解決のためのデータ分析入門	古田 壮宏 准教授
	造形芸術学特講（日本美術の流れ）	山岸 公基 教授
	光の科学と人間	中村 元彦 教授
大阪教育大学	特別なニーズのある子どもの教育	西山 健 准教授
	学校安全	藤田 大輔 教授
	平和のための教育	山田 正行 教授
京都教育大学	健康科学論	森 孝宏 教授

平成26年度は、三教育大学全体で、他大学の授業を受講した学生は、前期204名、後期888名の延べ1,092名でした。1,000人以上の学生が他大学の授業を受講しました。

京都教育
大学の
様子

大阪教育
大学の
様子



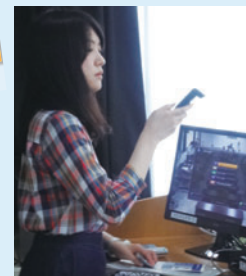
各大学でグループディスカッションをし、その後、意見を交換します。異なる大学の学生と交流することで多様な考え方に触れることができます。

奈良教育
大学の
学生

学生(TA)のコメント

大学院 修士課程
教科教育専攻
理科教育(文化財科学を含む)専修

ながた ゆみ
2年生 永田 祐未さん



わたしは昨年度から双方向遠隔授業のTAを担当し、機器の調整や通信状態の確認、発信大学の先生と受信大学の学生とのコミュニケーションを仲介するための授業補助などを行っています。トラブルが生じた際には、相手となる大学と連絡をとって対処したり、すぐに解決できない場合は支援員の方に連絡して対応してもらったりします。

TAを通して、様々なトラブルやその対処を経験できたことや、遠隔授業を支えるチームの一員として、枠組みの全体像をつかむことができたことにも大きな意味があると思います。

わたしは鹿児島県で教職に就きたいと考えていますが、離島などの僻地にある学校が非常に多く、遠隔授業が僻地でよりよい教育のためのひとつの可能性になってくると思います。実際に遠隔授業を導入するにあたって、起こりうるトラブルや、授業を行う教師の工夫、授業を受ける生徒たちへの配慮、必要なサポート体制など、枠組みの面でも経験が活かせるのではないかと思います。



ICT活用サポーター活動

情報教育部門では、教育現場でのICT活用に興味のある学生を募り、「ICT活用サポーター」という活動を支援しています。活動の主な目的としては、参加学生の「教員として必要なICT活用能力の向上」と学校現場での活用のサポートをすることです。

平成24年度後期より、月に1回程度の勉強会やOJT(On the Job Training:現場で働きながら学ぶ)を進めています。具体的には、右のような活動です。

また、これらの活動を記録・共有し、振り返りを実施することでさらなるICT活用能力の向上を目指しています。

- 勉強会：学校現場でのICT活用の実践例を学ぶ
- 演習：グループディスカッション・グループワーク
- 附属学校および大学内でのOJT

勉強会

学校でのICT活用をサポートするための基礎知識を様々な形で学ぶために以下のような取り組みを行っています。

- ICT機器・デジタル教科書等の試用や利用方法の検討
- 学校現場での活用事例の紹介およびそれに基づく議論
- 附属学校のICT環境の見学
- 学校現場のICT運用・活用支援をしているNPOの担当者による、学校のICT環境や各種機器の運用や支援のポイントの紹介
- 教育関係企業の講師による指導の下で、教育支援の留意点、教室でのICT活用の支援検討などを議論



▲実際に機器を操作している様子



▲ICTを活用した授業実践の様子を視聴

参加者の声

私は2年生のとき、このICT活用サポーターの存在を知り、活動に参加しました。主な活動は、近年学校現場にも導入されてきた、電子黒板やタブレット機器などの利用方法を考えたり、実際に学内や学校現場でのサポートに入ったりすることです。また、自分達でも新しいICT機器を使うことができるように仲間たちと一緒に勉強会をしたり、地域と連携したICT活用事業に参加したりもしてきました。これから学校現場で積極的に使っていくことになるICT機器を研究している場の1つに携わる事ができ、実際に自分が触り考える活動を通して、自分が教員になった際に、これらの機器の利用法を考えるのがスムーズになる事や、情報活用で気をつけるべき事など、今のネット社会を生きていくための知識やスキルが身についたことを体感しました。今後も、サポーターの仲間と共に、ICT機器を正しく活用できるよう伝えていく中で、私も学び続けていくことができればと考えています。



教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 数学教育専修

4年生 ^{うめもと なおや}梅本 直哉さん
(大阪府立北千里高等学校出身)



附属学校支援

奈良教育大学附属中学校におけるICTを活用した公開授業のためのタブレットPC活用を支援しています。

具体的には、次のような活動です。

- ICT 機器を使用する授業の事前準備
(タブレットPCの設定や動作確認など)
- 授業中の支援
(トラブル対応、児童・生徒からの質問対応や声掛け)
- 授業後の活動(機器の片づけなど)

授業準備▶



▲授業中の支援



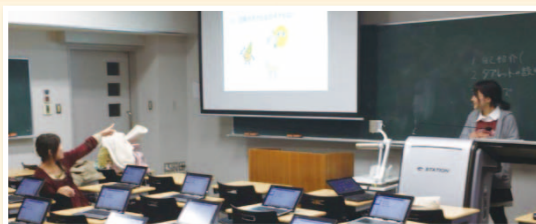
▲授業後の片付け

大学訪問・見学支援

福井県小浜市から修学旅行生16名
キャンパス見学の一環として模擬授業スタイルでひとり1台の
タブレットPC利用を体験：30分
学生3人が担当・授業者と支援者を担いました

企画・準備・実施を担当

児童らが事前に奈良について学んでくるところを活かしつつ、
タブレットPCをどのように使うことができるかを検討しました。
また機械トラブルが起きないか、時間に収まるかリハーサルし
本番を迎えました。



▲事前準備の様子

リハーサルを通して内容や進め方を学生同士で議論しながら組み立て



▲タブレットPCでクイズに解答



▲回答結果をグラフですぐに共有



▲本番：奈良のお水取りをおさらい

私はこれまでICT活用サポーターとして、様々な勉強会、附属小学校・附属中学校や教員免許状更新講習のICT機器操作支援など、たくさんの活動をさせていただきました。その中でも特に印象に残っていることは、附属小学校・附属中学校でのICT機器操作支援です。ICT機器操作を中心とした支援ではありましたが、児童・生徒の学びを深めるためには、すぐに答えを提示させないほうがよい場合もある、ということを知りました。すぐに答えを提示してしまうと、その時は「あっ、なるほど」と納得します。しかし実際に児童・生徒の身についているのかということには疑問が残ります。しばらくICT機器を操作することにより、自分で解決方法に気付く場合も多くあり、結果的には与えられた方法よりも、自力で身につけたほうが、自分自身の力となっていることも多い、ということを知ることができました。これはICT機器関連だけでなく、教育現場における様々な場面にも当てはまるように思います。このように、ICT活用サポーターとしての活動を通して、教師を目指す上で身につけたいことも同時に学べたように感じています。

教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 社会科教育専修

しまおか ともえ
4回生 島岡 智江さん
(大阪府立清水谷高等学校出身)





ボランティアは 楽しい!?

ボランティア活動? カッコつけて! 良い子ぶってるんじゃないの!
人の役に立ちたい? それって、単なるおせっかいでしょう。
結局のところ、自己満足じゃないですか!

こんな風に思っていないですか?

ボランティア活動をしていない人がそう思っているのも不思議はありません。
でも、やってみないと分からないことがあります。動くことによって見えてくるものがあります。

一度、動いてみませんか?

今回は学生のボランティア活動を支援しているボランティアサポートオフィスの取り組みを紹介します。



ただ今、手話を練習中

大学生活の自由時間は 「自分探し」の時間

方法は大きく分けて、2つあります。

- ①一人で自分を見つめ直す。一人で旅をし、本を読み、悩み、一人で考える
- ②他者と関わることで自分を客観視する。友人と語り合い、討論をし、アルバイトという形の社会参加をする、ボランティア活動をするなど。

「ボランティア活動」とは

語源であるラテン語の Voluntas(自由意思) から推測できるように、自由な意志に基づき自発的に社会参加活動することです。

社会の成熟に伴い、異なる価値観が絡み合い複雑化し、人々の価値観が多様化しています。結果、現行の社会システムだけでは解決できない課題が増大しています。システムとシステムの間隙を埋め、解決へと導くのがボランティア・NPO 活動です。

ボランティア・NPO 活動は すべての課題を解決できるか?

単純な事ではありません。社会システムの間隙は、ひとつひとつ異なった様相をもっています。課題を見つけ出し、個別に対応をしていかななくてはなりません。

課題発見のためには、社会を丁寧に観察・分析し、考察を重ねる必要がありますが、最終的には個々人の感性に委ねるしかありません。「課題探し」は「自分探し」そのものですが、社会的課題を見出してしまった者の責任として、動かずにはいられなくなります。その状況に素直に寄り添ったとき、個別の対応策が自ずと見えてくるはずで、これらの活動の積み重ねが、少しずつ社会の変革に繋がっていくのです。

ボランティアは他者のためだけのもの?

いえ、支援者にとっても、自発的で、現代の経済論理に乘らないで無償だからこそ得られる学びがあります。特徴的な二点を挙げます。

- ①ボランティアをすることにより多様な価値観を持つ人と出会い、様々な生き方や考え方を学ぶ事が出来ます。社会的課題を共に考え、解決に向けて一緒に動くことで、豊かな人間性を養うことが出来ます。他者と協働することにより、自分の個性を自覚することも出来ます。
- ②コミュニケーション能力の向上です。社会人になると価値観の違う人とのより高度なコミュニケーション能力が必要になります。ボランティアの現場では、考え方の異なる人と協働する必要に迫られますが、逃げずにじっくり話せば分かり合い、深い人間関係を築くことが出来ます。

こうして身につけたコミュニケーション能力や状況把握力、分析力、判断力、指導力などは、教職に就いたときに必ず役立ちます。

時間は創るものです。

創った時間で興味を持つことができるボランティア活動に参加してください。きっと新たな発見と喜びがあります。以上を参考にしてあなたの学生生活をデザインしてください。



ボランティアサポートオフィス会議中



ボランティアサポートオフィス
ボランティアコーディネーター
こじま みちこ
小島 道子さん



東北教育復興支援

2011年3月の東日本大震災から4年以上が経ち人々の記憶が薄れていく中、東北の子どもたちはいろいろな想いを抱えながら日々の生活を送っています。本学ではこの4年間に1週間ずつ13回の学習支援を実施しました。全国で数多くの大学が東北支援活動をしていますが、教育復興支援に特化し、現地の子どものため、また学生の学びのためのきめ細やかな事前・事後指導で充実したサポート体制をとっている大学はごくまれです。活動終了後のレポートには改めて教師になる意味を見出した感想が寄せられています。



子どもに寄り添う学生



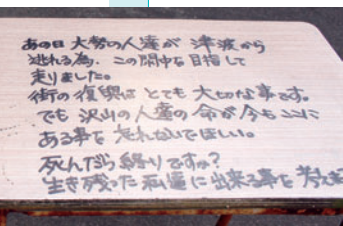
自学自習支援



教育学部
学校教育教員養成課程
教育発達専攻
心理学専修 4回生

こいけ ゆか
小池 由佳さん
奈良県立平城高等学校出身

東北教育復興支援に2回参加しました。宮城県内の小中学校で学習支援や環境整備を行いました。被災地見学も行い、メディアでは感じとることの出来ない被害を目の当たりにしました。たった1週間の滞在ですが、遠い奈良から来てすれ違う「風の人」だからこそ、地域や親族の人達のように気を遣うことなく自由に心の内を話せる雰囲気大切に、子どもたちの話を聞いて受け止める役割を果たしました。子どもたちの心に寄り添うことができた素晴らしい経験になったと思います。



宮城県名取市立関上中学校に置かれた机

生活困窮家庭の 子どもの学習支援

子どもの貧困は社会の問題であって子どもの責任ではありません。他の子どもたちと同じように学ぶ権利が保障されなければなりません。この事業は奈良県地域福祉課との協働事業として2012年8月にスタートしました。目的は高校進学に向けての学習支援をすると共に、生徒の社会性や他者との関係を育む支援をすることです。活動前には本学教員による「わかった！を導く支援の工夫」や守秘義務等の研修を実施しています。



事前研修

最初は中学生と接することに不安もありましたが、生徒がとても素直で一生懸命勉強する姿に感激しました。勉強だけでなく、子どもたちは学校の様子なども話してくれ、毎週の学習教室をとても楽しみにしていました。部活終わりで疲れているにもかかわらず欠かさず来ている生徒も何人もいました。一緒に勉強していた子ども達の努力が実り、自分の力でつかった高校入試合格の報告は自分のことのように嬉しく思いました。子ども達の居場所である学習支援教室の一員として活動に参加できたことを感謝しています。



大学院 修士課程
教科教育専攻
理科教育
(文化財科学を含む)専修
2回生

かすが ひかる
春日 光さん

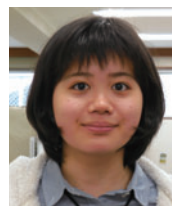
地域連携

ゆりまつり

率川神社は日本最古の神社のひとつである大神神社の摂社です。子守明神とも言われ、古来より子育ての神として信仰を集めています。その伝統的な祭りに地域の人々と共に「七媛女」「ゆり姫」として日本人学生、留学生共に参加しています。



七媛女(左)とゆり姫(右)の装束を着た留学生



大学院 修士課程
教科教育専攻
理科教育
(文化財科学を含む)専修
2回生

いみな まみこ
新名 麻美子さん

地元の人が計画的に準備してゆりまつりが成り立っていること、楽しみにしている人が多くいることを感じる事ができたと思います。また、一緒に参加した留学生と関わる良い機会になりました。地域のイベントが様々な人によって支えられているのを実感するボランティアでした。



ネパール地震被災者支援募金

5月16日(土)、23日(土)の2日間、近鉄奈良駅前にてネパール地震被災者支援街頭募金を実施しました。修学旅行生など多く



近鉄奈良駅前募金活動

の方のご協力を頂き、21万円余りの募金をお預かりしました。ネパールの女性と子どもの支援をしている「チョウタリィの会」を通して現地に届けました。

募金活動を通して様々な人と関わることができました。ネパールの被災者の人々の力になりたいと思っていた人も多くいるのだとわかりました。私たちの募金活動が、そのような人たちが行動するきっかけになっていたらいいと思います。この募金活動を通して、日本だけでなく外国のことも知りた、そして何か動きたいと思うようになりました。私にとっても大変貴重な学びになったと感じています。



教育学部
学校教育教員養成課程
教科教育専攻
国語教育専修 3回生
おくはら ゆき
奥原 夕貴さん
奈良県立郡山高等学校出身

異文化理解プロジェクト

小学校の放課後子ども教室で留学生による出身国の紹介をしています。小学生の頃に世界の文化、価値観の違いに触れることは大事なことでと考えます。小学生の日常生活に重点を置き、外国の風土・文化などを紹介します。子どもたちは勿論、地域連携に係わる大人たちにも好評を得ている活動です。



おにごっこ



留学生によるタイの話



教育学部
学校教育教員養成課程
教科教育専攻
数学教育専修 4回生
さいだ ひろな
幸田 早苗さん
私立天理高等学校出身

子どもたちは食べ物やその国の子どもたちの学校生活、遊びなど、身近なことに興味を持っていました。外国を身近に感じることが異文化理解の第一歩なのだと学びました。また、子どもたちが遊びを楽しんでいる姿を見て、どこの国の子どもたちも遊ぶことが好きで、言葉が通じなくても、楽しくコミュニケーションをとることができるのだと思いました。私自身もいろんな国の文化を知ることができ、とてもいい経験になりました。



ルーマニア留学生
**スタンク
アンドレア
ミハエラさん**

最初は子どもたちの反応が気になり緊張しました。しかし、子どもたちはルーマニアのことを聞けば聞くほど興味深くなりまして、楽しい雰囲気が出ました。子どもたちの温かい心と興味深さに感動しました。鳥見小学校に行かせて頂いたことは、一生忘れられない一日です。

岩手県陸前高田市図書館 ゆめプロジェクト

不要になった図書を募り、売却益を岩手県陸前高田市の図書館再建費用のために寄付します。学内では図書館、学生支援課、生協に回収かごを置いています。学外では奈良市中央図書館にご協力をいただいています。現在、集まった書籍は3000冊、寄付額は4万円余りになりました。



古本回収かご



教育学部
学校教育教員養成課程
教科教育専攻
国語教育専修 3回生
まえま けんたろう
上間 健太郎さん
奈良県立高田高等学校出身

「図書館再建」というのは「被災地復興」とは、なかなか結びつかないと思います。確かに図書館が再建したからといって直接的に被災地の方々の生活がよくなるはないでしょう。しかし、本というものは人の心にエネルギーをもたらすものです。そのため、「図書館再建」は被災地の方々の心の復興を支えるものとして、役立つものになると私たちは信じています。

ひまわりオイルプロジェクト

東日本大震災以降、岩手県陸前高田市で塩害除去のため植えられていたひまわりの種を引き継ぎ、奈良県内で学内外の多くの方に育てていただいています。結実した種からオイルを搾り、協力していただいた人達の東北への想いと共に、陸前高田市の「たねっこまぐべえ会」に届けて活動に使っていただいております。



畑を耕している様子



ひまわりの種を取り出しています



クローズアップ

本学教員の研究を
詳しく紹介

古典を読み継ぐ

人間関係から読み解く 『源氏物語』

物語は作中人物のさまざまな人間関係を語ることによって形成されているという側面を持ちます。物語に語られている人間関係を分析することは、その物語がどのような構造を持っているのか、どのようなことを描こうとしているのか、といったことを明らかにする一つの方法となりうるものでしょう。

私がおこなってきた研究の一つは、そのように作中人物の人間関係

に注目することで、『源氏物語』のいわゆる「続編」の物語を読み解こうとするものです。ここでいう「続編」とは、「宇治十帖」（現存の『源氏物語』五十四帖の物語のうち、終わりの十帖）と一般に呼ばれる物語を主に指します。『源氏物語』の主人公として知られる光源氏ひかるげんじの没後の世界を描いたもので、宇治を主な舞台とする物語です。そこでは、薫かおる（光源氏の子）・匂宮におうみや（光源氏の孫）の恋やそれにまつわる女性たちの苦悩などが語られています。

さて、人間関係には、親子関係、きょうだい関係、男女関係、友人関係、師弟関係等々、さまざまなもの

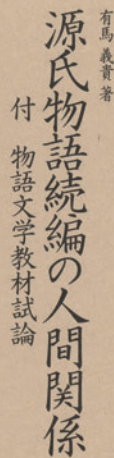
が存在しますが、それらの中でも私が特に注目してきたのは、親子きょうだい関係です。その一つの要因として、主な研究対象としてきた「宇治十帖」の主人公ともいべき薫が、複雑な親子きょうだい関係を持つ人物であるということが挙げられます。

先ほど薫について「光源氏の子」と記しましたが、実は、薫は光源氏の正妻女三おんなさんの宮みやと別の男性との間に生まれた子、すなわち不義密通の末に生まれた子であり、しかし世間的には光源氏の子として認識されている、という人物でした。薫自身、早くから自らの出生に疑いを抱いてお



宇治川





『源氏物語続編の人間関係 付 物語文学教材試論』
(新典社、2014年)



およそ千年も前につくられたとされる『源氏物語』ですが、その複雑な物語世界は、いまなお人々の新しい解釈、多様な解釈を許容し(あるいは容易には読み解きえないものとし

読み継がれてきた『源氏物語』

ではありません。平安時代に成立したとされる『源氏物語』は、以後、鎌倉時代や室町時代、江戸時代といった、各時代の人々によってそれぞれに享受されてきたものなのです。

例えば、写真の『湖月抄』という書物は、江戸時代に北村季吟という人物によって著された、『源氏物語』の注釈書です(1673年成立)。自説だけでなく、『細流抄』(1510～1514年成立)、『孟津抄』(1575年成立)といった書を中心に、『河海抄』(1362～1368年成立)、『花鳥余情』(1472年成立)等の古注釈書の説を取捨選



准教授 有馬 義貴

日本文学協会委員など。



『湖月抄』(奈良教育大学図書館所蔵、913.361-14)

択して付しており、それまでの諸注を集成したものとなっています。このような書物をみると、『源氏物語』が確かに各時代の人々によって読み継がれてきたものであるということ、少しイメージしやすくなるのではないのでしょうか。

また、写真にみえる文字にも注目したいところです。現代の私たちが日常的に目にしたり書いたりする文字とは字形などが大きく異なっています。古典の本文を活字で読むことに慣れてしまっていると、それがもともとこのようなくずし字で書かれて伝わってきたということを見過ごしがちになるような気がします。

ちなみに、写真の『湖月抄』は印刷による書物ですが、江戸時代に印刷技術が発達して出版文化が形成されるまで、書物は基本的に手で書き写すことによって広まり、受け継がれてきました。そのような事実も、また、それゆえに生じる誤写などのような現象についても、教科書などで既に活字化されたものにばかり触れていると、やはり見落としてしまい

かねないのではないかと思います。

従来の古典教育(学習)では、『源氏物語』などの古典について、古くから読み継がれてきたものであるということを前提に、その魅力を探るといった立場から、作品自体を読むことに重きが置かれ、ほとんどの時間が費やされてきたような印象があります。勿論、作品の内容を捉えることも重要なことですが、一方で、そのような作品がどのように読み継がれてきたのか、受け継がれてきたのか、という点に目を向けることで学べる事柄も少なくないのではないのでしょうか。

そのような古典の享受・受容、継承に関する学習の問題についても、前述の『源氏物語』の人間関係とともに研究テーマとしてきました。

今後について

学習指導要領において「伝統や文化に関する教育の充実」が掲げられ

て以降、古典教育(学習)の果たすべき役割はより重要視されるようになってきました。2011年度からは小学校でも古典教育(学習)がおこなわれています。中学校・高等学校での古典教育(学習)もそれを踏まえたものになっていくでしょう。古典の魅力や価値について、作品自体の内容からも勿論ですが、それ以外の観点からも多角的にとらえていくことが、ますます必要になってくるのではないのでしょうか。

奈良教育大学に勤務することとなった昨年度以降、現職の先生方や教員志望の学生の皆さんと接する機会により多く恵まれるようになりました。そのような環境をいかして、『源氏物語』を含む数々の古典についてより深く学び合い、広くその魅力や価値を探り、そして、それらを教育(学習)にいかす方法などについて、議論を重ねながら模索していきたいと考えています。



ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —

学校教育教員養成課程 教科教育専攻
英語教育専修

英語科教育

さとう りん たろう
佐藤 臨太郎研究室



大学院 修士課程 教科教育専攻
英語教育専修 2回生
いづみ だに たかし
泉谷 忠至さん



佐藤研究室の紹介

私が所属する英語教育専修の佐藤研究室では、英語教育学、教室SLA（第2言語習得）研究を専門としています。研究室に所属する学生たちは、英語の授業での実践の核となる理論を多く学ぶことができます。佐藤先生は、ゼミの場では1人の研究者として学生に対して厳しい指導を与えてくれますが、悩んだ時は学生を育てる1人の教師として学生に親身になって助言を与えてくれます。

毎回のゼミでは、学生たちが卒業論文、修士論文に向けての研究の進み具合を報告します。また、英語教育に関わる文献をゼミ全体での輪読や、各回の担当者がそれまでの研究で見つけた文献の発表を行います。全て佐藤先生を中心に学生同士でもお互いに考え意見を出し合い、充実した議論が行われます。

佐藤研究室の特徴

佐藤先生は「英語教師は授業で英語を使用しなければならない」という強い信念を持っており、それが佐藤先生の授業はもちろんのこと、ゼミにも反映されています。基本的にはゼミはall Englishで行われます。これはゼミ生が学校現場で英語を使用するための英語力を高める為です。ゼミ生は毎回ほとんどの文献を英語で読み、英語でのレポートを書き、それを英語で発表します。しかし、日本語を一切排除するというわけではありません。より深い議論を行う際や内容の確認の際には日本語に切り替えて行われることもあります。ここにも佐藤先生の信念が反映されています。

さらに、佐藤研究室では卒業論文、修士論文の発表も英語で行います。英語教育専修では卒業論文、修士論文を英語で書くことになっていますが、それらを英語教育専修内で発表する会が設けられています。主に2回生から4回生、院生、先生方が集まり、発表を行います。そこで佐藤研究室に所属するゼミ生は英語で発表を行います。これは英語教育専修内でも佐藤研究室だけの試みです。ゼミ生たちは日頃の研究はもちろん、十分な準備を行い、発表に臨みます。この発表会を通して、ゼミ生はさらに自信をつける事ができます。佐藤研究室には毎年、海外より教員研修留学生がゼミに参加してくれ議論をさらに白熱させてくれます。過去には、東ティモール共和国や、タイ、スーダン、そして今年はカンボジアより教員研修留学生が参加してくれています。彼らのような海外の現場の先生が参加することで、

ゼミでの共有言語が英語になり英語力を高めるだけでなく日本以外の国での教育事情を学ぶことができ、ゼミ生にとってはかなり良い刺激になっています。

Student's Voice

Hi, I'm Un Vutha

I come from Cambodia. I am a student of Teacher Training Program at Nara University of Education. I am actually interested in English Education. The main reason I choose this subject is that I am enthusiastic about Second Language Acquisition and how languages are learned. I expect that I can acquire new knowledge about techniques and methods in teaching English through fully participating in any class activities. Interestingly, I can have a chance to share some experiences about learning and teaching English in secondary schools. I hopefully believe that I will have an opportunity to visit upper secondary schools in Japan so that I can know how English is learned and taught. My research interest is about language learning strategies. I really want to figure out the relationship between language learning strategies used by second language learners and their academic achievement. I'm learning a lot in this Sato-sensei's Zemi.



ウン ブッタ
Un Vuthaさん
教員研修留学生

現場で使える研究を

佐藤ゼミのモットーは、「現場で使える研究を」というものです。つまり私たちが英語の教師になった時に、役に立つ知識・指導法などについて研究を深めています。たとえば私は「英単語をどのように教えるのが効果的であるか」「どのような単語を教えていくべきか」ということなどについて研究しています。語彙指導は、すでに多くの先行研究があるのですが、今はそれらを学んだ上で、さらに検証が必要なこと、疑問点、矛盾しているような事例はないかなどを確認している段階です。さらにそこからテーマを絞って集中的に検証していく予定です。



教育学部
学校教育教員養成課程
教科教育専攻
英語教育専修 4回生
とくなが けいすけ
徳永 圭佑さん
私立京都成章
高等学校出身

METS などの学外での勉強会

佐藤先生は、METS(Meeting of Teachers)という研究会を主宰されています。METSとは小・中・高の先生や大学の先生、他大学の学生などが集まり、英語で中高での英語の授業実践や小学校外国語活動の取り組み、英語教授法や言語習得など様々なテーマについて語り合う場です。私もMETSのメンバーとして参加していて、METSでは理想の授業に出会ったり、新しい知識や考え方に触れることができました。ゼミ生としてMETSの運営のお手伝いをしたりもします。将来、教員になってMETSのような場で発表することが私の目標です。さらには、英語教育の研究会や勉強会に自主的に参加するゼミ生も多く、毎回素晴らしい発表に刺激を受け、大学での学びに活かしています。



教育学部
学校教育教員養成課程
教科教育専攻
英語教育専修 4回生
ひがしかわ ゆうき
東川 裕基さん
兵庫県立姫路飾西
高等学校出身



「今に生きる学生時代の学び」

私は今、奈良市立春日中学校に勤務しています。今年の4月に6年間勤務した奈良市立都南中学校から初めての転勤を経験し、新たな気持ちで頑張っているところです。

両校にはさまざまな背景をもつ生徒が在籍していますが、彼ら彼女らがなかまと共に学び、成長していく姿に刺激を受けながら、充実した毎日を過ごしています。

私が生徒と関わる中でいつも大切にしていることが二つあります。一つは、働き始めたころ先輩の先生に教わった「すべての生徒指導は授業から」ということです。

中学校の教師にとって最も多くの生徒と関わるのできる機会が授業であり、この授業の中で生徒と信頼関係を築くことができれば、その後の生活指導等も生徒の心には届きにくくなります。また、さまざまな問題行動を予防するためにも落ち着いた教室の雰囲気づくりが必要ですが、そのような教室の雰囲気をつくるのも授業です。

このような意味での「すべての生徒指導は授業から」という言葉であり、だからこそ「おもしろい授業」をしなければならぬと考えています。

とは言うものの、「おもしろい授業」とは何なのか、どうすればできるのかを悩む日々が続きました。そのようなときにいつも思いだすのは、大学、大学院でお世話になった竹田先生や田淵先生の姿です。学生時代の私は、両先生が実に楽しそうに、熱をもって話される講義の内容とその姿、人間性にひかれていきました。その後、両先生のゼミに入り、私が西洋史、社会科教育を専門とし、中学校の教師を志すことになるほど大きな影響を受けました。教師がその分野に精通しているだけでなく、教師自身がその学問、内容を「おもしろい」と感じていることが、生徒にとっての「おもしろい授業」につながるということ、そして「おもしろい授業」をする教師を生徒は魅力的に感じるということをも両先生は教えてくださっていたのだと思います。

この経験をもとに、私自身が「おもしろい」と思う教材、展開ができるまで教材研究を続けるということをいつも大切にしています。これは非常に時間のかかるものですが、授業の後に生徒が「社会科っておもしろいな」という言葉をかけてくれる時には、教材研究の苦勞を一気に忘れることができるものです。

もう一つは、「教師は一人だけでは生徒と向き合うことができない」ということです。

生徒たちはさまざまな個性や背景をもつだけでなく、思春期を迎えた微妙な時期であり、生徒と良好な人間関係を築くことが難しいことも多くあります。しかし、その生徒に、同じ学年の女性の教師や養護教諭、部活動の顧問など多くの教師がそれぞれの立場から関わることで生徒が少しずつ心を開き、自分も良好な関係を築くことができるようになることがあります。

このような時、私は大学時代のバスケットボール部の活動をいつも思い出します。指導者のいない状況の中で、同級生やマネージャーと協力し、試行錯誤しながら練習メニューや遠征の計画など部の運営を行っていました。キャプテンをさせてもらっていましたが、自分一人でもできたことなど何もなく、先輩・後輩の力も借りながらチームがひとつになって活動していました。「チームで一つのことに向かう」ことをこの時に学びましたが、生徒に対しても同じことが言えると思います。全教師集団で一人ひとりの生徒と向き合うことで生徒を理解し、導くことができるのだと思います。教師となった今も、チームとして動くことのできる先輩やなかまの教師がまわりにおいてくれることは本当に幸せなことです。

このように授業づくりにおいても、生徒との関係においても教師として悩むことは尽きませんが、そのようなときに常に私の支えとなり、道しるべとなるのは大学・大学院で出会った先生方であり、なかまとすごした日々にあるのだと感じる毎日です。

奈良市立春日中学校
教諭

おおつか あつし
大塚 厚さん

(教育学部 学校教育教員養成課程
言語・社会コース 社会科教育履修分野
平成18年3月卒業
大学院 修士課程 教科教育専攻
社会科教育専修 平成20年3月修了)



卒業旅行でエジプトに



大学時代のバスケットボール部のなかまと



マチュピチュで田淵先生の真似をしました

After graduation



授業風景



奈教のひみつ

学生広報スタッフ
“なつきょん's CLUB”
企画



実践! アクティブ・ラーニング

図書館というと、一人で静かに勉強するところと思いませんか？もちろん、基本的に図書館は静寂で集中できる空間なのですが、それだけではありません。図書館にあるラーニング・コモンズは、グループで話しながら勉強できる空間です。



ラーニング・コモンズ

広々とした開放的な空間は、まさに「コモンズ（共有地）」です。キャスター付きのテーブルやイス、ホワイトボードは、自由に動かせるため、グループの人数に合わせて自在にレイアウトできます。ファミリーレストラン調のソファ席もあります。

この空間をどう使うかは「As you like」。ちょっとしたセミナーやワークショップを開催することもできます。さらに、貸出用のプロジェクタやタブレットPCを使えば、プレゼンテーションも簡単。スマートフォンも接続できるため、みんなで地図を見ながらミーティングという使い方もできます。



活用法いろいろ!

授業での活用



グループワーク



ラーニング・コモンズ



グループでのミーティングに最適!



リラックスした講義



グループワーク (さらに自由に)



今、大学をはじめとする教育現場では、「アクティブ・ラーニング」が積極的に取り入れられています。能動的(アクティブ)な学習(ラーニング)とは何でしょうか。従来の講義スタイルの授業は、知識伝達を目的とした一方・受動的な学習と言えます。これに対し、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどを活用した、双方向・能動的な学習スタイルがアクティブ・ラーニングです。

図書館では、アクティブ・ラーニング実践の場として、ラーニング・コモンズおよびグループ学習室を設置しています。授業はもちろんのこと、授業で出された課題への取り組みのほか、学生の主体的な学習の場として、ラーニング・コモンズは活用されています。

また、ラーニング・コモンズにはプロジェクトや電子黒板、Wi-Fi環境など最先端のICT設備があり、学生スタッフによる利用サポートも行っています。同時に図書館には「知の宝庫」と呼ばれるほど膨大な資料があります。デジタルとアナログが有機的に結合し、より高い次元へと昇華する「学びの空間」がラーニング・コモンズなのです。



グループ学習室①

入口には何やら重々しいドアがあり、「遮音室」の文字が。その訳は、入ってみるとわかります。中にはグループ用テーブルの他にも高性能PC、マイク、背景用スクリーンがあります。そう、ここは動画編集用の機材を備えた教材作成スタジオでもあります。他に使用できる機材には、ビデオカメラ、照明、録音機材があり、ビデオ教材を自分で作成することができます。これらの機材を使うには、ちょっとしたコツが必要ですが、慣れてしまえば意外と簡単にプロ並みの動画編集をすることができます。



動画編集もお手のもの



グループ学習室

少人数のグループで集中したいときには、やはり閉じられた「部屋」がありがたいものです。図書館にはグループ学習室が3つあり、それぞれに特徴があります。



グループ学習室②

この部屋にある謎の機器「ディスカッション・テーブル」。正体は、巨大なタブレットPCです。50インチのタッチパネル式PCが埋め込まれたテーブルに図面、グラフなどを表示し、四方八方から同時に書き込みができます。さらに壁面の2台のサブディスプレイにその結果を表示することができるため、さまざまな比較を交えたプレゼンテーションを行うことが可能です。



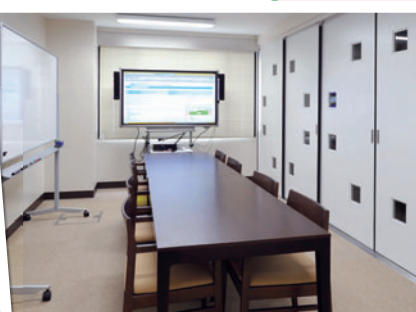
ディスカッションテーブルを使ってミーティング



グループ学習室③



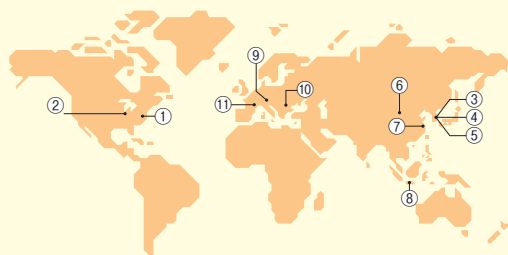
電子黒板で模擬授業



この部屋には、タッチパネル式の電子黒板があります。学校現場では現在、全教室の電子黒板化が進められています。電子黒板は、板書練習をはじめ、デジタル教科書を使った模擬授業などに活用されています。また、この電子黒板はタブレットPCと連携することができ、タブレットPCを活用した最先端の双方向授業についても実際に練習することができます。



留学生 レポート



- ① ロックヘイブン大学
- ② セントラルミシガン大学
- ③ 嶺南大学校
- ④ 公州大学校
- ⑤ 光州教育大学校
- ⑥ 西安外国語大学
- ⑦ 華東師範大学
- ⑧ インドネシア教育大学
- ⑨ ハイデルベルク大学
- ⑩ プカレスト大学
- ⑪ リヨン第三大学

Interviewee



教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻
英語教育専修 4回生

奈良県立畝傍高等学校出身
ふるかわ やまと
古川 大和さん
セントラルミシガン大学 (アメリカ)
(留学期間 2014.8 ~ 2015.5)



本場アメリカでのバスケ



日本語会話クラブの皆との一枚

✚ 留学をしようと思ったきっかけは。

将来、生徒に英語を教える前に、自分がもっと外の世界を知る必要があると思ったからです。

✚ 留学する前にどれくらい語学の勉強をしていましたか。

英語教育専修なので、大学の講義を中心に勉強していました。留学開始の1年ほど前から、TOEFL の勉強も並行して行っていました。

✚ 留学先ではどのような1日を過ごしていましたか。

平日は、夕方まで大学の講義を受けて、放課後は、大学のスポーツセンターで現地の学生とバスケットボールをしたり、図書館で宿題をしたりしていました。週末は、友達とスポーツをしたり、パーティーに行ったりして息抜きをしていました。

✚ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

日本人にとっては語学留学が主流だと思います。しかし、他の国から来た留学生のほとんどにとっては英語が話せることは前提で、自分の専攻(ビジネス、メディア、デザインなど)を勉強するために留学している場合がほとんどだということです。

✚ 留学中に一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

一番うれしかったのは、アメリカ人の子供たちが、日本語で挨拶してくれたことです。大変だったことは、日本食を食べたいときに食べられなかったことです。

✚ 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

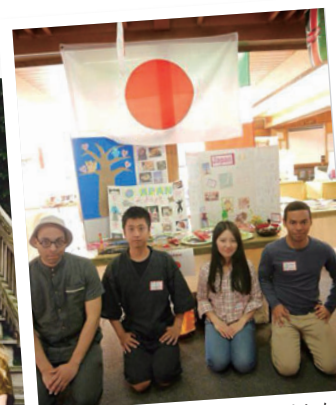
卒業後に、奈良県の中学校の英語教員になりたいと思っているので、自分の体験談を語って、生徒たちに、少しでも英語に興味を持ってもらえればと思います。

✚ 在学生、高校生の皆さんに一言。

人生一度きりです。留学を経験した自分の人生と、留学を経験しなかった自分の人生を想像してみてください。誰でも留学に不安を感じるのは当たり前ですが、勇気とやる気があれば何でも乗り切れます。留学しなくて後悔することはあっても、留学して後悔することは絶対にないと思うので、是非、挑戦してみてください。



留学生たちとシカゴ旅行



大学のイベントで日本を紹介しました





アメリカミシガン州中央部にある中規模公立大学です。国際交流が積極的に行われており、本学との交流も長く行われています。近隣の川や湖でカヌーなどの水上スポーツが楽しめたり、運動施設が整っていたりと快適な環境が用意されています。

セントラルミシガン大学 (アメリカ)



国際寮の友達

Interviewee

セントラルミシガン大学 (アメリカ)
バグランド Connor
マック レーン
Mc Lain さん
日本 / 奈良教育大学
(留学期間 2014.9 ~ 2015.8)



上野ドライブインの忍にゃんと

✦ 留学をしようと思ったきっかけは。

わたしはマウント・プレザントという小さい田舎な町で生まれました。留学前にずっとそこに住んでいました。大学の4年生の時が近づくにつれて、外に行って見たいという気持ちが強くなりました。他の大学に引っ越すことを考えましたが、結局留学の方が面白そうだし、他の大学に引っ越すより帰るのが早いし、留学しようと思いました。

✦ 留学する前にどのぐらい日本語を勉強していましたか。

セントラルミシガン大学で日本語の授業を二つ受けました。

✦ 奈良教育大学の学生としてどのように過ごしていますか。

専門が美術ですので、アメリカで勉強したことは「アート」でした。それからしゅみは音楽です。ですから、日本でも、陶芸スタジオに行ったり、毎日ギターをひいたり、友達と一緒に遊んだりして、生活しています。

✦ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

アメリカと日本の丁寧さのあらわれ方は全然違います。例えば、アメリカでは、道路とかバスとかで知らない人としゃべるのが普通ですが、日本では知らない人とぜんぜん話しません。それから、大学の先生をファーストネームで呼ぶほうが親しい感じだと思いましたが、日本ではしつれいな感じです。また、アメリカでみんなの前で鼻をかむのは良いけど、鼻をすするのは失礼だし、気持ち悪いという印象です。日本の場合は、その反対だと思います。

✦ 留学中一番うれしかったことは何ですか。

日本の電車が最高です。どこでも旅行できますし、静かだし、いつも綺麗だし、日本の電車が大好きです。奈良から大阪や京都に簡単に行けるのも大変便利です。安全もすごいです。日本では、いつでもどこでも一人で安全な気持ちを持続しています。

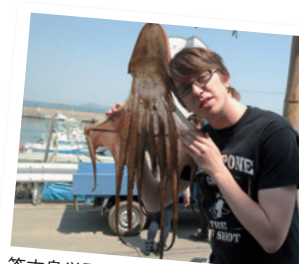
一番大変なことは、多分食べ物です。日本の食べもののはとても美味しいけど、スーパーで、食べ物の値段がすごく高いです。特に果物です。帰国してから、果物をいっぱい買おうと思っています。

✦ 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

帰ってから、日本語の勉強を続けたいと思います。それに日本の美的スタイルが気に入ったので、これからの私の美術の勉強の内容に含めたいです。

✦ 日本の大学生、高校生の皆さんに一言。

外国に行けるチャンスがあれば、絶対に行ったらいいと思います。全然違う文化を経験すると、自分の人生をもっと広くしてくれます。



答志島学習旅行で大ダコにびっくり!



奈良のまち



キラリ 奈教生



Profile★ プロフィール



教育学部
学校教育教員養成課程
教科教育専攻
英語教育専修 3回生
やまざき かし
山崎隆史 さん
群馬県立高崎
高等学校出身

附属中学校科学部のロボット世界大会優勝を支えた山崎隆史さん

附属中学校科学部は、昨年ロシアのソチで開催されたロボットコンテスト WRO (World Robot Olympiad) の世界大会へ出場し、オープンカテゴリー中学生部門で見事優勝、世界一に輝きました。

今回はその世界一を英語やプレゼンテーション指導などの様々な面で支えた英語教育専修の山崎さんにお話を伺いました。

帯同することになった経緯を教えてください

きっかけは、前回の世界大会に参加した先輩からオファーを受けたことです。その先輩も、科学部が世界大会（スペイン）に参加するにあたり、英語のサポーターとして随行した英語科の方でした。私は英語を実際の環境で教えられる大事なチャンスだと思い、ともに行くことを決意したということが経緯です。

準備期間にしたことは？

準備期間での私の仕事は英語のプレゼンテーションを指導することでした。オープンカテゴリーが、「テーマに沿って組み上げたロボットについて英語で発表する」という部門だからです。具体的には、発音やイントネーション、効果的なジェスチャー、表情、そして声の大きさなどです。TED のプレゼンテーションを参考にしたり、英語科の教授に質問したり、友人から参考書を借りて読み漁ったりもしました。

また、担当した生徒たちとコミュニケーションをとり、時には悩みの相談に乗りました。世界大会で求められるレベルは高く、そのプレッシャーは大きなもので、苦戦している生徒たちにどのような言葉をかければよいのか、一晩中悩んだ時もあります。練習後には、自分の接し方のどこが正しかったか、また、これから生徒たちとどのように接するべきか、顧問の先生と遅くまで話し合いました。プレゼンテーションの練習はもちろん、生徒たちのケアも担当し、中学校という現場ならではの経験を積むことができたと思っております。

当日はどのような様子でしたか？

当日は英語のサポーターとして、空港でのホテル交渉や道案内、現地でのトラブル対応など様々な場面で仕事をさせていただきました。生まれて初めての海外経験で、むしろ生徒たちの方が慣れていました。私なりに努力をしました。準備の段階から発表の時まで、私が最も力を入れていたのは質問対応の練習でした。これは英語圏出身ではない私たちにとっての難関でした。自分の用意した英文を話すことはできますが、審査員から当日きかれる質問は、いわば Listening と Speaking の能力をフル活用する必要があり、この質問対応も点数に入るため、優勝を狙っていた私たちは本気で練習しました。生徒たちの付き添いだった私は、飛行機の中やホテルでも、彼らにひたすら英

語で質問し答えさせていました。顧問の先生とは質問の予測リストを作成し、何をききとればいいのか、どのように話せばよいのか、文字通りすきま時間を活用して練習しました。

また、当日の出来事で印象的だったことはトラブル対応でした。参加するチームのブースが並ぶ中、反対側で準備していたチームがこちら側に向かって釘を打ち、それが貫通して飛び出してきたのです。保護者の一人が危うくけがをしそうになり、顧問の先生と抗議にでました。しかし私は物腰が弱く、相手に意見を述べても無視されたりはぐらかされたりでした。この時の出来事が非常に悔しく、また己の無力さを痛感させられました。これもまた、自分のチームを守る責任を体感し、必要ならば強く主張しなければならないことを学びました。

生徒達とどのように接しましたか？

特に気を使ったことは、挨拶と掃除、そして名前を呼ぶことでした。まず、科学部の部室へ入って「こんにちは」の一言。部活が終わって帰っていく生徒一人一人に「さようなら」も忘れませんでした。私はいわば新参者で、ロボットのことも大会のことも生徒たちの方がよく知っています。そのため、私にできる最大限努力しようと考えました。部室の掃除も積極的に参加し、活動をできるだけ共にすることで親睦も自然と深まったと思います。また、これは大学に来てから学んだことですが、人の名前を早く覚えると仲良くなることが出来ます。指導の時には、名前を呼ぶようにしていました。

大会の準備期間から当日まで、一貫して生徒に寄り添えるよう心がけました。挨拶や気持ちをしっかり言葉で伝えれば、特段怒る必要もなく、彼らと接することができました。必要ならば顧問の先生と相談し、また自分のその日の行いを評価することで毎日新しいことを学び、ノートにまとめていました。

山崎さんのことを教えてください

私が英語の勉強を始めたのは中学 1 年生の学校の授業からです。英会話スクールに通った経験はなく、高校時代は塾にも通いませんでした。英語のテストもとびぬけて出来たわけではありません。しかし、私が奈良教育大学の英語教育専修に進もうと決めた理由は英語が好きだからです。そして、その英語の楽しさを誰かに伝えることもまた楽しいと思うからです。この大学に来てから、今まで Writing と Reading だけを繰り返していた作業の English から Communication を中心とする言葉としての English を学んでいます。それは、奈良県特有のプログラムで、例えば東大寺で英語の観光ガイド体験もしました。私にとって、この大学は英語のアウトプットの場であり、今までどうしても足りなかった経験を、様々な角度から積み重ねてもらっています。少人数制もあって、発言しやすい環境で個人の能力を伸ばすにはもってこいだと考えています。



ブカツ魂!

奈良教育大学には、文化会所属11団体、体育会所属26団体のクラブがあり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。今回は、創作ダンス部です。

文化会

- ギターマンドリンクラブ
- 書芸部
- ウインドアンサンブル
- 地歌箏曲部
- 軽音楽部
- 現代視聴覚文化研究会
- 茶道部
- 奈響ネブ(アカペラ部)
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会)
- すずのこ

体育会

- 合気道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部

【学生団体・クラブ紹介】 http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/extracurricular_education/

pick up

創作ダンス部

部員数26名

創作ダンス部は4年生6名、3年生8名、2年生6名、1年生6名の計26名で構成されています。主な活動としては4月に新入生サークルオリエンテーション、7月にUP STAGE、11月に輝舞祭でのステージ、2月に三教教育大学リビエルステージなど。今年度は11月上旬に京都女子大学の大学祭にて行われるダンス企画に依頼出演する予定です。

日々感謝・日々成長



教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 保健体育専修 3年生
三重県立松阪高等学校出身
創作ダンス部 部長
くぼた かいと
久保田 海渡 さん

こんにちは! 私たち創作ダンス部は、総勢26名で活動しています。例年入部者のうちほとんどがダンス初心者なので、普段の部活では先輩・後輩関係なく、互いに刺激しあって練習に臨んでいます。また、ダンスは基本的な練習を個人レベルで行う必要があるため、部活動の時間だけでなく空きコマや休日を利用してそれぞれが自由なスタイルで練習することが多いです。部活全体の活動としては、新入生向けの学内ステージや奈良教育大学大学祭でのステージ、近隣小学校でのダンス発表や大阪教育大学・京都教育大学ダンス部とのコラボレーションステージなどを行って

います。この中でも小学校での発表や他大学とのコラボレーションは最近になってお誘いいただけるようになりました。これは歴代の先輩方が築いてきてくださった創作ダンス部の活動が周囲の方々に広まり、認めていただけたおかげだと思っています。歴代の先輩方や日々の活動を支えてくださる関係者の方々を始め、練習を行う十分な施設があるという自分たちの環境に感謝することを忘れず、部員一人一人が成長していける、そんなチームを目指します。さまざまな場所での活動を通してたくさんのお客様に喜んでいただくことはもちろん、これらの機会を通して生まれる「人とのつながり」を大切に、後代に引き継いでいくため、私たち創作ダンス部はこれからも日々練習に励んでいきたいです。



練習風景



全体写真



今年度注目部員1年生たちです

活躍する奈教生

奈良教育大学次世代教員養成センターESD・課題探究教育部門では、多様な経験を積み重ねることで生きる力の本質を探究できる教員を養成することを目的の一つとし、青少年体験活動奨励制度への参加を推進しています。

青少年体験活動奨励制度とは、文部科学省が推進している事業で、14歳以上25歳未満の青少年が、ボランティア・運動・教養・自然の4領域の体験活動を長期にわたり継続することを奨励する制度です。活動は、4領域の各

活動に対して青少年が自ら、目標を設定し、内容を決定し、活動計画を立て、実行します。

昨年度、本学の学生は9名が修了し、親木翔平さん(当時4年生)と小西花奈さん(当時2年生)の2名が、3月に奈良教育大学で開催された表彰式に出席、修了証を授与されました。

	親木さん	小西さん
ボランティア体験	目標:中学生に学習習慣をつけてもらう、学力向上 活動内容:毎週1時間~2時間中学生への学習支援	目標:算数のつまづき解消を目指す 活動内容:学習支援
運動体験	目標:基礎的な体力を身につける 活動内容:水泳、フルマラソン	目標:立ち止まらず30分走り続けるようになる 活動内容:ウォーキング、ジョギング
教養体験	目標:将棋を通して、豊かな人間性を養う 活動内容:将棋のルール・マナーを覚えること、ネット対局での練習、将棋教室への参加	目標:教材研究をして週に1枚はプリントを作成する 活動内容:教材研究、プリント作成
自然体験	目標:想定できない困難に対応することのできる力を身につける 活動内容:自転車のみを用いて琵琶湖周辺(約200km)をまわる	目標:自分たちで火をおこして調理をする 活動内容:野外調理



活動報告をする親木さん



修了証を授与される小西さん



2月8日～28日



学生・教員製作の展示物を楽しむ来館者

科学館で特別展を開催しました

学長裁量経費プロジェクト「理数ミュージアム構築構想」の一環として、京都府木津川市にある「きつづ光科学館ふおとん」で、特別展を開催しました。

授業、卒業研究、修士論文や新理数プロジェクト等で教材・教員を作成し、子どもたちに算数・数学・理

科の魅力を伝えており、今回、このような活動のもとに作られた教材・教具の展示を行いました。

来館者は、学生の案内のもと、自分で動かし、見て、体験して、普段目にはしているものの背後にある数学・理科を味わっていました。

2月10日



談笑する長友学長と参加学生

学長と学生の交流イベント「学長と話をしよう」を開催しました

このイベントは学生の声を大学運営に活かせるように、普段、接することの少ない学長を身近に感じてもらえるようにとの想いから、平成25年度より開催されています。

今回は大学祭実行委員会に所属する学生12名が参加し、長友学長は普段どのような仕事をしているのかといった素朴な

疑問から、本学の大学祭についてどのような印象を持っているかということまで、さまざまな質問が寄せられ、長友学長は一つ一つの質問に対して、丁寧に回答をしていました。また、長友学長からは学生生活についての質問や、自身の大学生時代の体験談の紹介などがあり、活発な意見交換の場となりました。

2月14日・15日



雪遊びをしています

ウィンターキャンプを実施しました

福井県の今庄365スキー場にて1泊2日のキャンプを行いました。障害のある子どもたちと、その家族に学生が同行することで、普段はあまり体験することのできない雪遊びを楽しむという、学生企画活動支援事業のひとつです。

当日の天気予報は雨でしたが、2日間とも雪遊びやそりを

楽しむことができ、充実した時間を過ごすことができました。

参加した家族の方から喜びの声をたくさんいただくことができたという学生は、「子どもたちが夢中になって遊んでいたのが印象的、仲間と一緒に成長することができた」と話していました。

3月22日



全員で頑張りました

学生オペラ2015を実施しました

音楽科を中心とした学生が毎年3月に行っているオペラ公演は、今年で16回目を迎えました。今回の演目はモーツァルト作曲「コジ・ファン・トゥッテ」。この作品は個性豊かな6人のキャストが繰り広げる、中世ヨー

ロッパを舞台としたコミカルな恋愛喜劇です。原作をより忠実に表現することを目指し、「ONLY ONE」を目標に、一人一人が個性を大切にしながら全員が活躍できる「コジ・ファン・トゥッテ」を作り上げました。

3月26日



握手する長友学長(中)と四大学学長(代理)

奈良県内4大学と教員養成の高度化に関する連携協定を締結

教員養成の高度化に関する連携協定を奈良女子大学、奈良大学、帝塚山大学、天理大学の4大学と締結し、本学で協定調印式が行われました。

この協定は、県内の各大学に在籍する教員を志す学生を対象として、本学教職大学院において、教育実践力を備えた高度専門

職業人としての教員を養成することを目的としています。本学教職大学院へ進学を希望する4大学の学生は、特別選抜(推薦入試)を経て、学ぶことになります。

今後、県内の大学とともに、奈良県において優れた実践力・応用力を備えた教員の養成がより一層進められていくことが期待されます。

4月9日



自慢の踊りを披露しました

留学生懇談会を開催しました

この春に入学した留学生を歓迎するとともに、既に在籍している留学生や日本人学生、教職員との交流を深めることを目的として、留学生懇談会を開催しました。

当日は、18時からの開始にも関わらず、なっきょう食堂(学生食堂)には、多くの留学生や日本人学生、

教職員などの学内関係者が参加しました。

懇談会では、日本人学生、留学生がお互いに積極的に話しかける姿が見られ、親交を深めていました。また、留学生がギター演奏や踊り、歌などを披露し、おおいに盛り上がりました。

4月20日・21日



私の国はこんなところですよ

留学生による国紹介イベントを開催しました

毎年恒例の留学生による国紹介イベントが行われました。

1日目は各国の料理を試食するコーナーが出されました。あいにくの雨の中、たくさんの方に日本ではなかなか食べられない珍しい料理の味を体験してもらうことができました。

2日目は各国のブースで文化紹介ラリーが行われました。ブースを順番にまわってクイズに答えると、各国の有名なものの写真がもらえるという趣向で、参加者のみなさんは熱心に留学生の説明に耳を傾けていました。

9月～3月



園児に楽器を教えています

楽器ふれあいコンサートを開催しました

奈良市内の幼稚園や保育園、福祉施設を訪問し、計11箇所で開催しました。幼稚園、保育園での曲目はアニメ主題歌や童謡を中心に、福祉施設では時代劇メロデーや長寿番組のテーマ曲など、施設の方のニーズに合わせて選曲を行いました。30分の演奏のあと、参加した子

どもたちが楽器に触れられる「楽器体験」の時間を設けるなど、音楽に親しんでもらえる工夫を凝らしました。

依頼のあった全ての施設での実施はできませんでしたが、「この企画を続けて欲しい」、「また演奏に来てください」という要望をいただき、学生にとってもいい経験となりました。



附属幼稚園 3月8日

学生サークルと触れ合った“だいがく探検”

年長児の卒園前の3月に、全園児が縦割りグループに分かれて「だいがく探検」に出かけました。大学の先生や学生さんの協力を得て、大学構内を探検しながら大学ならではの体験をさせていただきました。武道場では、剣道部のお兄さんに竹刀の振り方を教えてもらい、実際に叩かせてもらいました。舞踊場では、ダンスサークルのお姉さんたちと一緒に早い

テンポの曲に合わせて楽しく踊りました。理科の先生が飼っているヤギに乗せてもらったり、えさをあげたりもしました。その他、楽器演奏に合わせて切り絵をするところを見たり、幼年教育専修の学生手作りのロボットパズルをしたり、絵本のひろばで紙芝居を読んでもらったりと、盛りだくさんの楽しい体験ができた1日でした。



附属小学校 4月13日

“みんなで一歩を”

新しい仲間92人を迎える“1年生をむかえる会”。テーマは、『新しい仲間とおたがいのことを知り合いみんなで一歩をふみ出そう』でした。6年生が考えたものです。このテーマの「おたがいのことを知り」には、2～6年生は1年生の顔や名前、歌声を知り、1年生には附小のよさを知ってもらって安心してもら

う、という意味がこめられています。また、「みんなで一歩をふみ出そう」には、この“会”で附小のみんなが初めてそろい、ここから附小の1年を始めるんだという意欲がこめられています。

そうした気持ちをあらわすために、2～6年生はいろいろな準備をすすめました。



1年生一人ひとりを“あいぼう”の6年生が紹介



体育大会の応援の仕方を1年生に知らせる

附属中学校 5月16日～29日

附中ESDの中核行事である曾爾野外活動・答志島臨海実習・沖縄平和学習

5月は、全学年が附中ESDの中核となる宿泊行事に取り組みます。

1年生は1泊で曾爾高原での野外活動、2年生は2泊で鳥羽市答志島での臨海実習、3年生は3泊で沖縄での修学旅行です。

1年生は、附中での3年間をともに過ごす仲間との連帯感を、西浦峠登山やキャンプファイヤー・野外炊飯を通して高め合いました。2年生は、初日の漁家訪問で、漁家のくらしや漁業環境の変化など貴重なお話をうかがい、翌日は理科の磯観察で、ヒトデや貝、海浜生物などの観察、スケッチ等を行いました。3年生は、初日は平和祈念資料館見学、ガマの体験、平和集会、戦争体験者の方の講話、2日目は現地学生ガイドと共に、戦跡や基地などを巡り、

民家宿泊体験をしました。

1年生は、仲間と共に素晴らしい曾爾高原の自然に触れることで、ESDで養いたい力の一つである「人は自然の一部である」ことを体感し、2年生は、漁家さんからのお話で、ESDのキーワードの一つである「将来世代への責任感」を感じ、「環境容量理解」について学習しました。奈良での暮らし方により、ひいては遠く離れた三重の海洋汚染にもつながることを学びました。3年生ではESDで特に大切にしている「いのち」「平和」というテーマに迫る深い学びができました。「戦争では人間の尊厳がたやすく踏みじられること」「問題の本質を見抜く力」「現実的な課題に取り組む力」など、ESDで育みたい力や学びの手法が沖縄で培われます。



奈良に息づく仲間たち



【自然環境教育センター】
<http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/>

自然環境教育センター
准教授 辻野 亮



セミの声

夏のセミは、夏休みの開幕を告げるファンファーレである。もっともやかましいのはクマゼミであろう。クマゼミは黒い大型のセミで主に午前中にジャンジャンと鳴く。

奈良市では7月初旬頃から鳴きはじめる。

私たちからするとセミは夏の生き物と思ってしまうが、実はセミは数年間地面の中で木の根の汁を吸って生きており、夏のある日に地表へ出てくるにすぎない。セミは人々から見えないところで数年間必死に生長しないと鳴くことができ



ないのである。夕方にセミの幼虫が地中から出てきてのそのそと歩き、木などに登って羽化する。もしかしたら、それを見てセミの地中生活を想像した人もいるかもしれない。でも多くの人はセミがやかましく叫ぶ声によってのみ、その存在に気付くのではないだろうか。

セミが鳴くのは人生のごく限られた期間だけである。それを聞いている人々といったら、最初はセミと共に訪れた夏を喜び、シーズンの半ばにはうるさく感じ、いつの間にか聞こえなくなったことにさみしさを感じる。それでも人々は、セミが鳴いていた頃に学んだことや楽しかったことをセミの声と共に一生覚えていく。

あれだけやかましく叫んでいても、夏が終わればいつの間にか聞こえなくなっている。いったいつまでセミは鳴いているのだろう。



奈良 教 生 に



聞きました!

vol.14

新入生に聞きました 「4年間でやりたいこと」

学生時代にしかできないことがたくさんあります。有意義な4年間を過ごすためにも、しっかりと目標を持ち、取り組んで行きましょう。皆さんの取り組みを、大学教職員一同応援しています。

精一杯の恩返しを

ここに通えるのも、いろんな人が支えてくれたおかげ。恩返しのためにも精一杯勉強して、精一杯遊んで、卒業する時に「ここに来てよかった。」と、胸を張って言えるように日々を大切に過ごすことです。

みやがせ りお
宮風 梨緒さん(音楽教育専修)

生徒が見ている景色を

教師になったとき、生徒が見ている景色を見ることができないようでは話にならない。生徒に寄り添い、同じものを見ることができるよう、4年間でその基盤を作っていきたいです。

たけなか まさちか
竹中 正親さん(数学教育専修)

本を読み、学ぶ

4年間のうちに多くの本を読むことで、幅広い教養を身につけ、それを将来教員になるときに生かしていきたいと思います。

たにうち こうた
谷内 見太さん(社会科教育専修)

何でも全力で 取り組みます!

部活やボランティア、アルバイトなどたくさんの経験を積みながら、しっかり勉強して生徒が頼れる教師になりたいです。

おがわ あすか
小川 明日香さん(理科教育専修)

ごめんなさいと言える 大人になる

今まで出会った先生の中で「ごめんなさい」の言える人は何人いただろうか。生徒に謝れる先生になりたい。ならなくてはいいけないと思います。

いしり そうのすけ
井尻 宗之介さん(数学教育専修)

『語れる』教師に

授業だけではなくボランティア活動に参加し、身になる経験を経て授業の時に『語れる教師』になりたいです。

たにうち まさ
谷口 空さん(社会科教育専修)

奈良の教師になりたい

この4年間で奈良の教師になるという目標を、奈良についてたくさん学び、同じ専修の仲間とともに切磋琢磨して達成したいです!!

にしと ゆういち
西田 有希さん(社会科教育専修)

今しかできないこと

小学校の先生になるために勉強、音楽実技、また、部活やサークルなど、今しかできないことを全力でやっていきたいです!

たけい みほ
瀧井 美穂さん(音楽教育専修)



弊誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。

QRコード対応の携帯電話にてアンケートにご回答いただけます。

皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。



なつきょん's
CLUB

広報誌づくりなど、広報活動をお手伝いいただける学生広報スタッフを募集しています。

興味のある方は総務課秘書・広報担当まで、お気軽にお問い合わせください。



国立大学法人
奈良教育大学

奈良教育大学 広報誌『ならやま』

第49号 平成27年7月30日 編集/広報委員会 発行/国立大学法人奈良教育大学

3月・7月・10月各下旬発行

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9104 FAX.0742-27-9141 Email: kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

※広報誌『ならやま』は大学ホームページからもご覧いただけます。

http://www.nara-edu.ac.jp/

■ 大学ホームページでは、わかりやすく迅速に情報を発信しています。ぜひご覧ください
■ Facebookで最新情報発信中! <https://www.facebook.com/NaraUniversityOfEducation>

国立大学法人奈良教育大学 検索